

平成元年四月十日第3種郵便物認可  
二〇一六年四月一日発行 毎月一回一日発行  
二〇一六年四月号(通巻八二三号) 定価三〇〇円

# 友の書



◀太い線、細い線 うまく組合わせたすばらしい作品。  
綾野小四 宮窪 柊弥(三段)

三四郎が東京で敬馬いたものは沢山ある。  
第一電車のちんちん鳴るので敬馬いた。

長西 一年 吉井 千紘

▶のびやかな線で、ゆったりとした書きぶりが見事です。

長西中一 吉井 千紘(初段)

※せんひき※

ほうめい ねん な ま え	
---------------------------	--

ただしい えんぴつの

もちかたで かこう

しょうがっこう にゅうがく おめでとう。

ねんせい、とっても たのしみ!!

ながい せんが ひけるかな?

おおきな うずまき かけるかな?

※ゆびさきだけでなくて、せんたいをすべらすようにうづかしてかきましよう。

※えんぴつをただしくもちましよう。

※けしゴムをつかわないようになましよう。

※校名・学年・名前までいいねいに書きましよう。

☆手本のうずまきは、内側から外側へ時計まわりに書いています。時計まわりのうずまきであれば、スタートの位置・うずの数は手本どおりでなくてもよいです。

えんぴつのもちかた

ゆびにちからを  
 いれすぎないで  
 スーッと  
 かいてみよう。



しめきり 4月28日(木)必着のこと

★競書作品の  
 送り先は (〒520-0846 大津市富士見台3-18 宮川印刷株式会社内  
 (公社)滋賀県書道協会 審査部宛)

▲No. 3用紙・えんぴつ使用

《硬筆担当 梶原 明美先生》

▶すなおな かきぶりで ていねいに かけています。



▲本庄小 榊田 大河 出品券

▶かみ いっぱいに のびのび りっぱに かけました。



▲長浜小 海老原 奨 出品券

◆ねらい

ふでの けを  
ぜんぶ おろして  
くふでって  
たのしいな

▶すみを いっぱい ふくませ おおきく かけました。



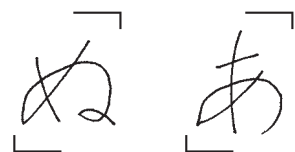
▲玉川小 鳩場 陸人 出品券

《毛筆担当 今井みつ子先生》

- ・一年生になったうきうきした気持ちが作品からも感じられるよう、楽しんで取り組める工夫をしてあげてください。
- ・形にとらわれず、自由に筆に親ませてください。
- ・筆は全部おろして、墨は根元までたっぷりつけさせてください。
- ・起筆で筆をおさえすぎないよう、また毛の根元までおさえないようご指導ください。

指導によせて

○はんしのおおきさで しゅっぱんしましょう。  
○なまえまでていねいにかきましよう。



または

かだい

※線のかたむきと間かく※

校 名 六 年 名 前	持	
	つ	最
	て	高
	前	学
	進	年
	す	る
前	夢	を
	出	品
	券	

線のかたむき・間かくをそろえよう！

そろえよう①

統一感は

作品の大切なポイント。

そろえることを意識して

書こう！！

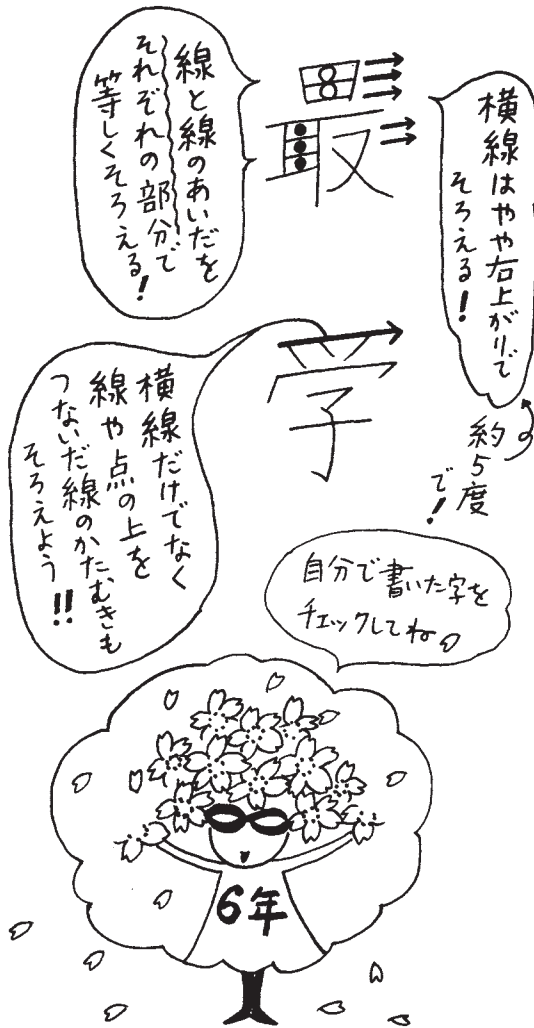
あんなところ、

こんなところ。

※指先だけでなく、手全体をすべらせて書きましょう。

※消しゴムは使わないようにしましょう。

※校名・学年・名前までていねいに書きましょう。



▲No.1用紙・えんぴつ使用

《硬筆担当 松沢 麻美先生》

しめきり 4月28日(木)必着のこと

★競書作品の  
送り先は 〒520-0846 大津市富士見台3-18  
宮川印刷株式会社内  
(公社)滋賀県書道協会 審査部宛

◆ねらい

最高学年としての決意を書こう

いよいよ最高学年のスタートです。  
やる気に満ちた今の気持ちを  
自分なりの書きぶりで表しましょう。  
語句も自分で考えて  
心をこめて書きましょう。  
人のマネはだめです。  
自分にしかな書けない作品を書くのです。

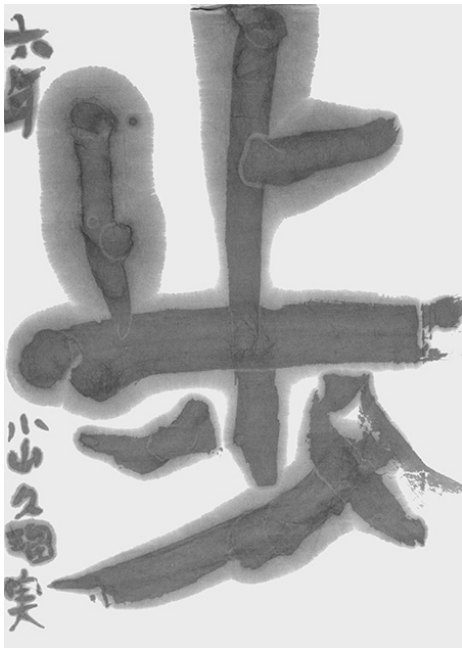
▶ありのままの自分を、文字通り堂々と紙面に表現していただきます。



▲仰木の里小 塚本 真心

出品券

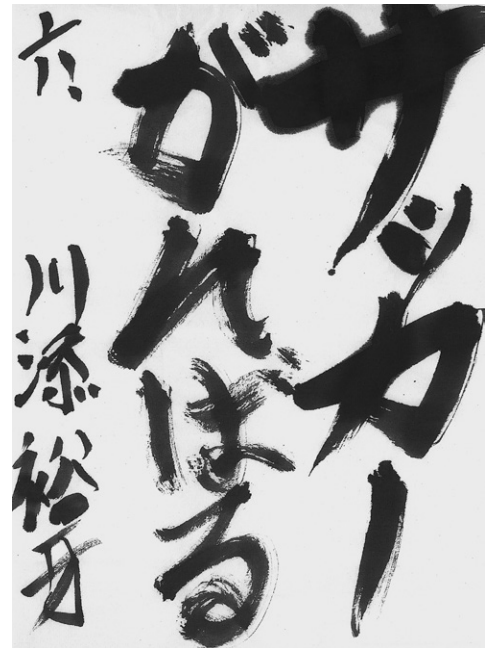
▶自分のペースで一歩ずつ…おだやかな決意もいいですね。



▲過去の優秀作品より

出品券

▶子どもらしくていいですね。線も力強く、名前もしっかり入っています。



▲河瀬小 川添 裕牙

出品券

課題

一年間のテーマ  
(成長、優しく、リーダー、等)  
○半紙と半切1/3  
○名前も作品の一部です。作品にふさわしい大きさ・位置に書きましょう。

指導によせて

高学年になるとキツチリ書きたがる：それを打破しましょう。指導者がたくさんの引き出しを用意して、子どもの関心意欲をかき立てましょう。「自分らしい表現」をこの一年間意識させ、見つけさせましょう。一年の終わりに「中学校でも書の友を続けたい！」と言わせたいものですね！

《毛筆担当 松永 大樹先生》